

# 茫々百年

## 入来院重朝



今年は二〇十四年、丁度百年前第一次世界大戦勃発。四年有半にわたる斬壕戦のあげく、およそ双方で千数百万の戦死者を出したところで、米国の連合軍の参戦によってドイツは敗北しました。とに角、ヨーロッパ各国は総力戦すなわち消耗戦を戦ったあげく死神ヒットラーを産み落としました。

私は一九三二年生まれで満州事変の年です。一九三七年日中戦争、当時支那事変と云いました。ノラクロの漫画全盛の時代です。ヨーロッパでは一九三九年ナチスヒットラーの獅子吼えのもと第二次大戦勃発、片や一九四一

年太平洋で日米対決し、四五年日独は連合軍に降服、ここにおいてアメリカ一国の世界支配体制のスタートが切られました。つまり私の世代は戦争づけのあげく敗戦後六九年、来年は七〇年記念を計画中だとか。その間ただ茫然と白昼夢の中で稼いだゼニは日本のお守り賃としてアメリカが搾り取り、昨今気がつけば日本人の富はここ二〇年来、無利子のまま据え置かれ、利子分は完璧にアメリカに上納されたのです。

かつて私もこの冊子に書いた通り、元来日本は明治帝国憲法下、完璧に無責任国家になったのですが、今や中国（支那）の勃興、アメリカの衰弱を目前にしてやっと目が覚めたようです。ホントに目が覚めたのかどうかちよっとわかりませんが、昨今のトッチャンボーヤの本気振りにまわりはキリキリ舞いさせられている様子はテレビなどの報道で今や

世界中が知るところです。私のかつての予想通りあと二、三回（？）総選挙のあとアメリカのくびきから抜け出し核武装に踏み切るでしょう。そうなつてやつとトッチャンボーヤの主張に世界が耳を傾けるわけです。勿論ロシアは、日本抜きにやつて行けませんから、これもかつて当冊子に書きましたが日口は実質同盟関係に行きつくでしょう。

さてしかし、我が国は今や若い者が結婚せず子供を産まず、つまり衰亡の道に入ったかのようなのです。つまり元気がない。どうしてこうなつたかと云うとワケは簡単です。『男もどき』ばかりで我が国に男がいなくなつたからです。つまり男は通過儀礼が一定の年に必要なのですが、戦後無責任国家であるゆえんである「自主防衛」の四文字が、ケロッと巷間に抜け落ちたまま男の役目がなくなつたかのようだからです。

最近ある雑誌のインタビュー記事で「帝国以後」(この著作は二〇〇二年刊行。世界に衝撃をもたらした)等の著者エマニュエル・トッドが「核武装大国日本への期待」を述べているのをみて矢張りさすがだと嬉しくなりました。世界の識者は正直です。また彼は少子化にストップをかけるのはクニの決断次第だと云っているかのようなのです。つまり教育費をクニが持つか持たないかです。フランスが少子化から反転したのは主に小・中・高・大学の授業料がタダだからでしょう。国家財政の運用の難しいことはどの国も同じ、社会保障費用のかさむのはそしてその是非はその中身によります。

さて最近おめでたい話がありました。日本最古の家系である出雲大社の禰宜の千家国麿さんと高田宮家の次女典子さまとの結婚が五・二七に内定しました。赤ちゃんをたくさん

産んで欲しいです。

元々我が国の骨格は出雲系が形作っていたのですが、平安時代四〇〇年の愉安の末、源平白赤合戦つまり日本の東西勢力の合一をめざしつまるころ南北朝合一を経ていろいろあつて徳川江戸時代を経験し、明治維新に到達したのでありますが、明治はすなわち出雲系長州族による政權奪還だったわけです。靖国神社は、元を正せば長州神社なのです。しかし、今をときめくトツチャンボーヤ総理は真つ当な出雲系の末裔です。明治以来一時昭和の軍全盛を別にと政權をほしいままにしてきたのはほとんど出雲系人脈に他なりません。彼らの特質は官僚制の構築とその運用にたけていること、つまるところ無責任体制に行きつきます。しからば現在トツチャンボーヤ内閣は如何、「内閣人事院」を創設しましたが、これ官僚を自家菓籠中にせんとす

るものです。大臣は勿論出雲系です。なんと云つても我が国の官僚は頭脳明晰優秀さにおいてフランスの官僚とどっこいどっこいでしょう。結局彼等が国の運命を左右するのですが問題は彼等が無責任の存在だと云うことです。しかして責任は勿論トツプの総理にあります。

そもそも前大戦の敗戦をトツプの責任者昭和天皇をアメリカGHQの悪知恵と共に免責にすることによって、後ろに控えているモロモロのワル一統を放免したことに敗戦後七〇年の我が国の無明の原因があります。

この小冊子十年目に当り重大な世界的スケールでの転機を迎えている今、我が国の現状を鑑みてまさに云いたいことを衣を着せずに書きました。乞寛恕(六・一)

(炬ばたセイ談庵主)



会食風景



炬ばたセイ談 (平成 25 年 10 月 13 日 入来院宅にて)